

便潜血陽性と言われたら

医療法人 小金井中央病院
内科医長 大和田 潤

便潜血検査で陽性と判定された場合、「消化管のどこかでわずかな出血が起きている可能性」を示します。ただし、陽性だからといって必ずしも重大な病気とは限らず、原因はさまざまです。

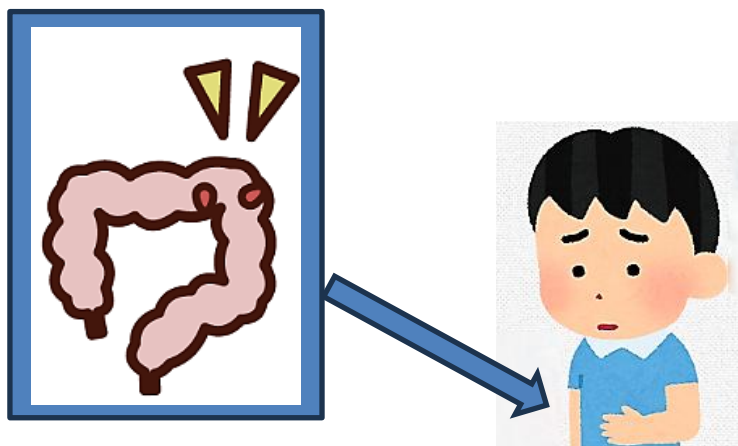


実際の割合としては、最も多いのは痔（いぼ痔や切れ痔）などの良性疾患で、全体の約3～4割程度とされています。

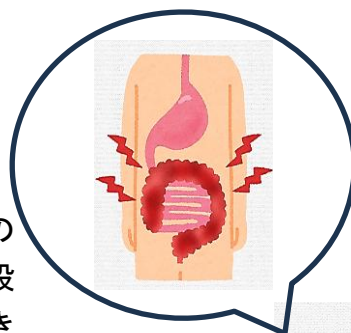
次いで、大腸ポリープが約2～3割にみられます。ポリープは将来的にがんへ進行することがあるため、早期発見・切除が重要です。大腸がんが見つかる割合は約2～5%程度と報告されており、決して高頻度ではありませんが、見逃してはいけない重要な疾患です。



そのほか、腸の炎症（腸炎や炎症性腸疾患）や一時的な出血などが原因となることもあります。



また、便潜血検査は目に見えない微量の出血も検出できるため、自覚症状がない段階で異常を見つけることができる点が大きな特徴です。一方で、検査はあくまで「出血の有無」を調べるものであり、出血の原因までは特定できません。そのため、陽性結果が出た場合には原因を明らかにするための追加検査が重要になります。



このように、「陽性＝がん」というわけではなく、多くは良性の原因ですが、一部に重大な病気が含まれている点が重要です。そのため、便潜血検査で陽性となった場合には、放置せずに医療機関で精密検査を受けることが強く勧められます。一般的には大腸内視鏡検査が行われ、直接腸の中を観察することで原因を正確に調べることができます。



早期に原因を確認し、必要に応じた治療を行うことで、多くの病気は良好な経過が期待できます。不安に感じる方もいらっしゃると思いますが、まずは落ち着いて次の検査を受けることが大切です。

肩関節周囲炎（五十肩）

医療法人 小金井中央病院
リハビリテーション科 技士長 三浦 瑞穂

1. 症状

肩関節が痛み、関節の動きが悪くなります（運動制限）。

○運動痛

動かす時に痛みがありますが、あまり動かさないでいると肩の動きが悪くなってしまいます。

髪を整えたり、服を着替えることが不自由になることがあります。

○夜の痛み

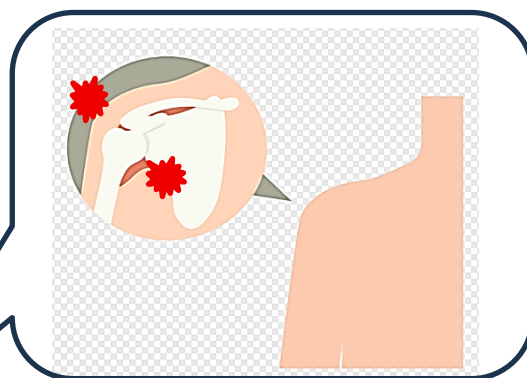
夜中にズキズキと痛み、ときに眠れないほどになることもあります。



2. 原因と病態

特に50歳代に多くみられ、その病態は多彩です。

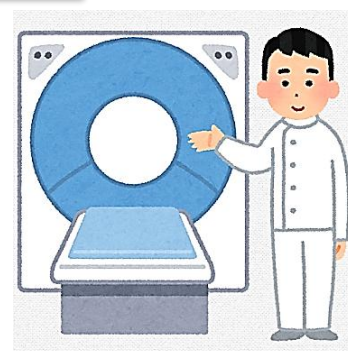
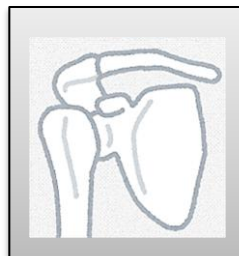
関節を構成する骨、軟骨、靭帯や腱などが老化して肩関節の周辺組織に炎症が起きることが主な原因と考えられています。肩関節の動きをよくする袋（肩峰下滑液包）や関節を包む袋（関節包）が癒着するとさらに動きが悪くなります（拘縮または凍結肩）。



3. 診断

圧痛の部位や動きの状態などをみて診断されます。肩関節におこる痛みには、いわゆる五十肩である肩関節の関節包や滑液包（肩峰下滑液包を含む）の炎症のほか、上腕二頭筋長頭腱炎、石灰沈着性腱板炎、肩腱板断裂などがあります。

これらは、X線（レントゲン）撮影、関節造影検査、MRI、超音波検査などで区別されます。



4. 予防と治療

自然に治ることもあります。放置すると日常生活が不自由になるばかりでなく、関節が癒着して動かなくなることもあります。

痛みが強い急性期には、安静、消炎鎮痛剤の内服、注射などが有効です。外来リハビリテーションでは、痛みを悪化させない範囲での軽い運動や姿勢調整を行い、炎症の沈静化を図ります。動かしづらさが目立つ拘縮期には、肩関節の動きを少しずつ広げるためのストレッチや関節モビライゼーションを行い、固まった組織の柔軟性を取り戻していきます。また、肩の動きを支える肩甲骨周囲の筋肉を整えることで、負担の少ない動作ができるようサポートします。回復期には、日常生活での動作練習や筋力強化を進め、再発しにくい肩づくりを目指します。



気になる症状がある場合、まずは、整形外科の受診をお願いします。